

スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

日本自立生活センター自立支援事業所 2018年10月29日発行 第91号

京都ダルクと芋煮会

日時 11月16日(金) 17:00~

場所 本体 参加費 300円

(担当 岡山・橋口)

薬物依存症からの回復を目指す人たちの集まり「京都ダルク」。
「もっとお互いを理解するための場や時間を」ということで
交流会を企画しました。

芋煮であたたまりながらトークしましょう！

こころとからだをすっきり！ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか？ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふう動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。もちろん腰痛予防にもいいですよ！ぜひ参加してみてください♪ 講師は石田久美さんです。

★ヨ ガ：全身をうごかすヨガ
日 時：11月19日(月)
17:00-18:15 (OPEN16:45)
場 所：油小路事務所2F
持ち物：動きやすい服装・タオル・飲み物
参加費：無料



* このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。

日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当:岡山・橋口

TEL: 075-682-7950 E-mail: jcil-kyoto@jcil.jp URL: <http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>

第二六回

東九条마당(マダン)

川でつながるみんなのマダン

主な内容 プンムルリ、マダン劇、和太鼓&サムルリ、シルム(相撲)大会、民俗あそびコーナー、タル(仮面)絵付けコーナー、楽器体験コーナー、出店、ほか

賛助出演

★イーリヤダスタルターガス

ブラジルの黒人サンバ『アフロサンバ』を中心に、生音の太鼓だけで叩きまくる
爆音パレード集団

★京都市立芸術大学トロンボーン四重奏

2023年度に京都駅東側の崇仁地域への移転が予定される京都市立芸術
大学音楽学部の在学生による演奏、ほか

JCIL の歴史をふりかえるパネル展や練り歩きもあります。

ぜひ来て下さい！

日時 2018年11月3日(土) 10:00-16:00 (雨天の場合は4日に延期)

場所 元・崇仁小学校

(河原町塩小路の交差点を東へ進み最初の信号を右折し約100M左側)

主催：東九条마당(マダン)実行委員会

協賛：凌風学園PTA 後援：京都府・京都市・京都府教育委員会・京都市教育委員会

小松食堂

一一月の献立

五日(月)

スパゲティ

パンとスープ

二二日(木)

野菜炒め

ご飯と味噌汁

二六日(月)

すき焼き

どなたでも参加できます。
場所は「松の間」
いずれも一七時から
参加費三〇〇円

第39回京都福祉まつり



去る10月21日、京都でてこいランドにて第39回京都福祉まつりが開催されました。今年も実行委員会を立ち上げ、半年以上前から準備をしてきました。今年は特に各地での災害が非常に多かったので、「障害者と防災」というテーマを掲げてプログラムなどをみんなで考えていました。

最初に毎年ご協力いただいている室町ライオンズクラブの会長の方の感謝状授与と福祉まつり実行委員会への記念品贈呈式がありました。続いては、ミスターマジックリンさんによる手品があり、参加者みんな楽しんでいました。

メインプログラムとしては、ゆめ風基金の八幡隆司さんをお招きし、ゆめ風基金での活動の様子や障害者が災害にあった際にはどうしたらよいか、また、どのようにすれば防災ができるのかということを中心に語っていただきました。八幡さんのお話の中で個人的に印象に残っているのは「最近では介助派遣の制度もできて来ていて、ある面では生活しやすくなっているが、その分、ヘルパーやお金が絡んだ人との人間関係が増えて、それ以外の地域住民などとの関係が希薄になっている」として「急な災害時は地域住民などとのつながりが重要になってくる」とおっしゃっており、日頃、私たちが心がけていることとやはり同じだと感じました。

続いては盲目で車いす使用者の山下純一さんからご自身の立場からの災害体験談と八幡さんとの対談があり、お二人の話は日頃、なかなか聞くことができないことだったので、参加者は誰もが聞き入っていたと思います。お二人の対談に続いて、シンガーである山下さんの歌を聴かせていただきました。大自然の中で山下さんの伸びやかな歌声に癒されました。



次のアピールタイムでは、ヘルプマーク使用者の小倉ひろみさんから、ご自身の取り組みの紹介、でてこいランドの竹中さんから「今後の福祉について」などアピールがありました。

そして、アピールタイムの後には、音頭バンドサンポーヨシのメンバーによる盆踊りがありました。車いす使用者の方も多いので、車いすに乗った状態でも踊れるように工夫した動きをレクチャーしてもらいながらみんなで輪になって踊りました。舞台設営の紅白幕や提灯もあり、雰囲気たっぷりに楽しめたと思います。

盆踊りに続いては、京遊亭喜多三さんによる落語やでてこい音楽隊による歌・演奏など盛りだくさんな内容になりました。

出演していただいた方以外にも、出店していただいた団体・個人の方々にも大変お世話になりました。誠にありがとうございました。(下林慶史)

第 33 回国際障害者年連続シンポジウム

～筋ジス病棟と地域生活の今とこれから～

筋ジストロフィー・クリスマス・シンポジウム

全国の旧・国立療養所筋ジストロフィー病棟には、今、〇千人程度の人たちが長期入院していると言われます。独立行政法人化して、病院の体制や入院患者のQOLはどうなっているのでしょうか。看護師による虐待の報道もありましたが、今の筋ジス病棟は患者にとっても、医療者にとっても厳しい環境なののでしょうか。一方、地域に出て、自立生活をはじめる当事者もあらわれはじめました。地域生活にも医療的ケアや介護体制などの様々な課題があります。筋ジストロフィーの患者たちがどのように豊かに生きていくのかについては、まだまだ多くの人にとって手探りの状況です。今回のシンポジウムでは、当事者、医療者、支援者、研究者たちが集まって、筋ジストロフィーの人たちのよりよい暮らしの実現に向けて、筋ジス病棟や地域生活の現状や課題を考えていきます。

【日時】 2018年12月24日（月・祝）

11:00（10:30 開場）～16:30

【場所】 京都テルサ東館2階セミナー室

【参加費】 500円

【講演・報告】

医療者：中島孝氏（独立行政法人国立病院機構新潟病院 病院長）

地域生活の当事者：古込和宏氏（金沢）、植田健夫氏（京都）、
高橋雅之氏（西宮）

研究者：立岩真也氏（立命館大学先端総合学術研究科 教授）

主催：国際障害者年連続シンポジウム運営・実行委員会

協力：日本自立生活センター、メインストリーム協会

連絡先：南区東九条松田町 28 メゾンガラス京都十條

日本自立生活センター（JCIL） 気付

Tel: 075-671-8484 Fax: 075-671-8418

☆シンポの後、クリスマス・パーティもあるよ！

（先着順、要予約）